

看護系短期大学入学生の職業的アイデンティティ形成を 促す入学前教育の試みと有効性

Effectiveness of the Pre-college Education to Develop Professional Identity
in Nursing College Students

上田博之・豊島めぐみ^{*1}・田中希穂^{*2}・石井あゆみ^{*3}・小林菜穂子^{*4}・津田右子

要 約

学業への動機づけと職業的アイデンティティ形成の促進にむけた高大接続教育の効率的な手法を検討するために、早期に看護系短期大学への入学を決めた高校生を対象に1日のスクーリングとeラーニングの入学前教育を実施した。そして、これら入学前教育が看護課程入学時における学業に対する動機づけと職業的アイデンティティ形成や大学適応感のレベルに及ぼす影響について検討した。動機づけ尺度の下位尺度である内発的動機づけ、自律的外発的動機づけ、統制的外発的動機づけにおいて入学前教育参加群と不参加群に有意な差は認められなかったが、参加群の職業的使命感と学校適応感は不参加群に比べて有意に高かった。また、参加群の学校充実感は不参加群に比べて高値を示す傾向であった。内発的動機づけは、職業的使命感・職業的スキルと正の相関関係を、また、職業的不適応感と負の相関関係を示した。学校適応感は、職業的スキルと有意な正の相関関係を、また、職業的不適応感と有意な負の相関関係を示した。これらのことから、今回行った高大接続教育は入学直後の学業的動機づけを高めるに至らなかったが、入学直後の職業的アイデンティティや学校適応感に良い影響を与えたと考えられる。内発的動機づけは学校に早期に適応させて目標を堅実なものにし、看護師となる自覚を強く意識させて職業的アイデンティティを高めることも示唆された。

Keywords: 高大接続、職業的アイデンティティ、学業的動機づけ、学校適応感

目的

近年、社会構造の変化や価値観の多様化により大学への入学動機や職業意識は変化しており、目的意識を持たずに大学進学をする学生が増加している。看護系大学・短期大学に入学する学生は将来看護師になることを目指しているために高い目標意識を持つ¹⁾が、最近では入学後に学業不振に陥る学生が増加傾向にある。国家資格取得や経済的安定性に惹かれて進路選択をしたが、専門職に求められる資質や専門教育の厳しさに向き合えるかをも吟味せずに入学してくる学生も見うけられる。しかし、満足な大学進路決定をできなくとも、多くの学生は大学入学後に看護師の社会的価値を受け入れて、看護に関する学業の意義を見出す。そして、自らが知識や技術の習得に積極的に取り組む姿勢を示し、大学生活に適応していく。一方で、消極的な姿勢で入学した学生の中には、推薦入試など十分な受験勉強を経ず、医療系大学に必要な生物関連科目の基礎知識を持たずに入学してくる学生も少なくない。これらの学生は、

解剖学や生理学などの基礎学習が進まず、そのことにより学習意欲を欠如させることもある。また、将来看護師として社会貢献しようという意欲に満ちた学生との間に温度差を感じて、大学生活に適応できずに一種のモラトリアムに陥り、やがて留年や心身の問題を引き起こすこともある。3年課程の短期大学では極めてタイトなカリキュラムで時間的なゆとりがないために、このような悪循環が助長される傾向にあるかもしれない。

看護職に対する目的意識の低さやイメージの乏しさは、看護師としての職業的アイデンティティの発達に影響する。職業的アイデンティティの発達が不十分であったり、不適切であったりすると、学生は看護職に対する不安や不適応感を抱き²⁾、所属意識の低下や課程からのドロップアウトが導かれる可能性が示唆されている³⁾。Worthingtonら⁴⁾は、看護師としての職業的アイデンティティが発達している看護学生ほど、看護課程を継続する傾向があることを示した。3年生課程においても、知識や技術の習得過程に

おいて自己概念を結晶化して職業的アイデンティティを形成することが報告されている⁵⁾。さらに、看護師としての職業的アイデンティティの発達は看護課程に入学した時にはすでに始まっており、看護師としてのキャリアの中で継続的に発達することが指摘されている^{6,7)}。これらのことからすれば、大学の看護課程は学生の職業的アイデンティティの発達をサポートするだけでなく、大学入学時もしくはそれ以前における職業的アイデンティティ形成のサポートが重要であると考えられる。

学生の職業的アイデンティティの形成には動機づけが大きく影響する。BengtssonとOhlsson⁸⁾やNasrinら⁹⁾は、看護学生が学業面において高いパフォーマンスを示し、看護師としての職業的アイデンティティを形成し、将来良いロールモデルになるためには学生の動機づけが重要な要素であることを示した。また、看護教育の内容そのものに興味を持ち、楽しみながら学業に取り組んでいる内発的動機づけが職業的アイデンティティの発達やキャリアの継続に関連する¹⁰⁾。

修学期間の短い3年制課程で看護教育を通して徐々に発達する職業的アイデンティティ形成を促すためには、看護課程への入学前の進路選択の段階から入学後の学業への動機づけを促進する高大接続教育が望まれる。特に、早期に進路が決定する入学予定学生は職業的アイデンティティの発達において問題を抱える傾向にあるため、効果的な高大接続教育手法の検討が急務である。近年受験対策などで大学教員が高校生の進路選択に関わる機会が増えているが、大学教員と高校生の双方に多くの時間を割く余裕はなく、学業的動機づけや職業的アイデンティティ形成を促すに至っていないのが現状である。

そこで、短期間で学業への動機づけと職業的アイデンティティ形成の促進に効果的な高大接続教育手法を検討するために、早期に入学を決めた生徒を対象に1日のスクーリングとeラーニングの入学前教育を実施した。本研究では、看護課程入学時における学業に対する動機づけや職業的アイデンティティ形成のレベルに及ぼすこれら入学前教育の影響について検討した。また、学校適応感の低下が学業的動機づけひいては職業的アイデンティティの発達を阻害することが考えられる。特に、修業期間の比較的短い3年制課程においては入学後学校適応感が学業の継続に大きく影響することから、入学後間もない時期の学校適応感に及ぼす入学前教育の影響についても検討した。

方法

参加者

アドミッションオフィス入試もしくは推薦入試により2017年11月以前に3年課程の短期大学に入学予定となった学生から無作為に選んだ20名を対象とした。このうち5名は同年12月に1日のスクーリングと入学までの期間にeラーニングによる基礎教育を受講した（以下、参加群）。残りの15名は入学前教育に不参加の対照学生とした（以下、不参加群）。不参加群の学生は、参加群の学生と同一高等学校を含む同地域にある高等学校の出身で、同じ時期に入学を決めた学生である。参加群・不参加群ともに私立学校と公立学校の出身者が3：2の割合で混在している。なお、この20名に短期大学に付属する高等学校の卒業生は含まれていない。また、本研究に参加した学生と同学年に属するすべての学生に調査を依頼し、協力が得られた42名の学生を加えて調査尺度の信頼性を検討した。

調査

動機づけ、職業的アイデンティティ、学校適応感の調査を学内ネットワーク上のアンケートシステムで、入学後2週間授業を終えた後の2018年4月16日～22日に実施した。

尺度

大学での学業的動機づけ、看護師としての職業的アイデンティティ、大学における適応感を測定するために、安藤¹¹⁾が作成した尺度の14項目、佐々木・針生¹²⁾が作成した20項目、大久保¹³⁾が作成した22項目をそれぞれ用いた。各項目について、「1. 全く当てはまらない」「2. かなり当てはまらない」「3. あまり当てはまらない」「4. ある程度当てはまる」「5. 比較的当てはまる」「6. 非常に当てはまる」の6段階で回答を求め、1～6点に数値化した。

分析

尺度ごとに因子分析を行い、各因子に高い負荷を示した項目の平均値を算出し、尺度得点とした。入学前教育が各尺度に及ぼす影響を検討するために、参加群5名と不参加群15名の平均値をt検定で比較した。

倫理的配慮

参加群には、スクーリング講座を実施する前に研究の意義と目的を口頭と書面で説明し、同意書をもって調査の参加を確認した。また、不参加群を含む同学年の学生には入学後の調査前に研究の意義、

Table 1 e ラーニングの項目

	1章	2章	3章
1	細胞とは	体をコントロールする神経と内分泌	呼吸の経路
2	細胞の構造	高速な連絡である神経	呼吸のしくみ
3	人体を構成する元素	ゆっくりと持続的に連絡をとるホルモン	肺で酸素を受け取り各組織へ運ぶしくみ
4	体の中でのタンパク質の役割	神経系は直接の配線	腎臓の構造と機能
5	体の中でのイオンの働き	脳や脊髄から伸びる末梢神経系	体全体をまとめ連絡を取り合うしくみ
6	細胞における浸透圧	食べ物が分解されるしくみ	濃度でホルモンをコントロールするホルモン
7	細胞は電気を帯びている	酵素の働きは化学反応の促進	水溶性の物質を受け取る細胞
8	細胞膜の働き	栄養素を吸収する分子機構	細胞内に入り込み作用するステロイドホルモン
9	酸素を吸って二酸化炭素を吐く	血液の働き	体内に入ってきた異物を攻撃する免疫
10	糖からエネルギーを取り出すしくみ	血液と独立した循環系	特定の侵入者を攻撃するしくみ

目的、調査への参加は自由であること、成績・評価等の不利益のないことを口頭で説明し、また、学内ネットワーク上のアンケートシステムでアンケート実施前に表示した。

入学前教育

短期大学において 12 月下旬に終日（10～16 時）スクーリングを行った。目的は 1) 基礎医学に関心を持たせること、2) 臨床経験のある看護師から情報を得て看護師の社会的価値を認識させること、3) 看護師を目指す生徒同士の情報交換により学業への動機づけを促進することであった。具体的には、「神経系の構造と機能」「呼吸運動」「血液循環の調節」に関する簡単な解説の後、「筋電図」「呼吸周期」「呼吸器量」「血圧」の測定演習を Biopack 社 StudentLab を用いて実施した。StudentLab は神経電位の変化、呼吸運動による胸部の動き、呼吸流量の変化、血圧と脈波の変化をコンピュータ画面で視覚的に観察できるため、専門教育に入る段階での生理学学業に諸外国でも広く利用されている。演習の後、臨床経験が豊富な看護教員と懇談、生徒同士のディスカッションを 3 時間程度行った。さらに、4 月入学までに e ラーニングシステムを用いて、生体の機能全般について簡単に復習した。e ラーニングは「身体のしくみを知る」として 3 章各 10 項目からなる (Table 1)。各項目は、通学の交通機関でも読める 400～600 字で、生物学や医学の基礎知識が全くない人にもむけて書かれた一般書籍^{14,15)}を参考にして体のしくみの概要を説明した。

結果

尺度構成

大学での学業的動機づけの尺度構成を検討するために、62名のデータを用いて最尤法・プロマックス回転による因子分析を実施した。複数の因子に高い

負荷を示した1項目を分析から除外し、再分析した結果、3因子を抽出した。各因子に高い負荷を示した項目を用いて α 係数をそれぞれ算出した結果、第一因子（6項目）は .88、第二因子（4項目）は .74、第三因子（3項目）は .86 であった。項目の内容から、第一因子を自律的外発的動機づけ、第二因子を内発的動機づけ、第三因子を統制的外発的動機づけとした。

職業的アイデンティティ尺度の構成を検討するために、同様に因子分析を行った。固有値の推移や因子の解釈のしやすさから因子数を 5 とした。複数の因子に高い負荷を示した項目やどの因子にも高い負荷を示さなかった 5 項目を分析から除外し、1 項目は逆転項目として処理した。各因子に高い負荷を示した項目を用いて α 係数を算出した結果、第一因子（3 項目）は .88、第二因子（4 項目）は .69、第三因子（2 項目）は .69、第四因子（2 項目）は .69、第五因子（3 項目）は .67 であった。項目の内容から、第一因子を職業的使命感、第二因子を職業的充実感、第三因子を職業的不適応感、第四因子を職業的継続性、第五因子を職業的スキルとした。

大学における適応感の尺度構成を検討するために、同様に因子分析を行った。因子分析の結果、4 項目を分析から除外し、4 因子を抽出した。各因子に高い負荷を示した項目を用いて α 係数を算出した結果、第一因子（8 項目）は .94、第二因子（4 項目）は .82、第三因子（4 項目）は .81、第四因子（2 項目）は .61 であった。項目内容から、第一因子を学校適応感、第二因子を目標意識感、第三因子を学校承認感、第四因子を学校充実感とした。

入学前教育の影響

参加群と不参加群の看護課程入学 2 週後の動機づけ、職業的アイデンティティ、学校適応感の各下位尺度得点を比較した。各下位尺度得点の平均値、標準偏差、t 値を Table 2 に示す。動機づけ尺度の 3 つ

Table 2 入学前教育参加群・不参加群の尺度得点

	参加群 (n=5)	不参加群 (n=15)	t 値
学業的動機づけ			
内発的動機づけ	3.4 ± 1.5	3.2 ± 0.9	0.39
自律的外発的動機づけ	5.4 ± 0.5	5.3 ± 0.8	0.17
統制的外発的動機づけ	2.3 ± 1.2	2.8 ± 1.9	-0.64
職業的アイデンティティ			
職業的使命感	3.9 ± 1.2	2.5 ± 1.0	2.55 *
職業的充実感	4.0 ± 1.0	4.1 ± 1.0	-0.10
職業的不適応感	2.7 ± 1.0	3.3 ± 1.6	-0.79
職業的継続性	3.8 ± 1.7	4.0 ± 1.4	-0.26
職業的スキル	4.1 ± 1.1	3.5 ± 1.0	1.14
学校適応感			
学校適応感	5.0 ± 0.7	3.2 ± 1.5	2.49 *
目標意識感	5.4 ± 0.7	5.1 ± 0.8	0.72
学校承認感	3.6 ± 0.6	2.8 ± 1.2	1.32
学校充実感	5.2 ± 0.9	3.9 ± 1.5	1.77 †

* $p < .05$ † $p < .10$

の下位尺度である内発的動機づけ、自律的外発的動機づけ、統制的外発的動機づけにおいて参加群と不参加群に有意な差は認められなかった。職業的アイデンティティ尺度では、参加群の職業的使命感が不参加群に比べて有意に高かった ($t(18)=2.55, p<.05$)。職業的充実感、職業的不適応感、職業的継続性、職業的スキルにおいては参加群と不参加群に有意な差は認められなかった。学校適応感尺度では、参加群の学校適応感が不参加群に比べて有意に高かった ($t(18)=2.49, p<.05$)。また、学校充実感において参加群が不参加群に比べて高値を示す傾向であった ($t(18)=1.77, p<.10$)。目標意識感と学校承認感において参加群と不参加群に有意な差は認められなかった。

下位尺度間の相関

学業的動機づけと職業的アイデンティティの関係を検討するために、下位尺度間の相関関係を算出した (Table 3)。内発的動機づけは、職業的使命感・職業的スキルと有意な正の相関関係 ($r=0.52, p<.05 \cdot r=0.79, p<.01$) を、また、職業的不適応感と有意な負の相関関係 ($r=-0.45, p<.05$) を示した。また、学校適応感と職業的アイデンティティの関係を検討した結果 (Table 4)、学校適応感は、職業的スキルと有意な正の相関関係 ($r=0.51, p<.05$) を、また、職業

的不適応感と有意な負の相関関係 ($r=-0.62, p<.01$) を示した。目標意識感は職業的充実感、学校承認感は職業的使命感とそれぞれ有意な正の相関関係 ($r=0.55, p<.05 \cdot r=0.55, p<.05$) を示した。

考察

看護系大学・短期大学の学生には、卒業後の職業が明確であるにもかかわらず、入学後に看護師の社会的価値を見出せずに苦しむ学生が存在する。また、何とか国家試験取得に至るが早期に離職する卒業生も存在する。これらは、在学中の職業的アイデンティティ形成の未熟さを示唆する。職業的アイデンティティは、看護教育の過程の中で形成され、その発達に自尊心の重要性が指摘されている¹⁶⁾。また、この時期に動機づけを高めることが、職業的アイデンティティのポジティブな発達につながることも指摘されている¹⁷⁾。そうすれば、修学期間の短い3年課程では特に入学直後から学業的動機づけや職業的アイデンティティ形成に注視し、それらの発達を促すことが重要である。本研究では、入学までに職業的アイデンティティ形成とそれを促進する高い学業的動機づけを促すために高大接続教育の可能性について検討した。

本研究においては、「基礎医学に关心を持たせる」

Table 3 学業的動機づけと職業的アイデンティティの相関 (n=20)

	職業的アイデンティティ				
	職業的使命感	職業的充実感	職業的不適応感	職業的継続性	職業的スキル
学業的動機づけ					
内発的動機づけ	0.52 *	0.15	-0.45 *	-0.01	0.79 **
自律的外発的動機づけ	0.16	0.33	-0.12	-0.05	-0.17
統制的外発的動機づけ	-0.01	-0.19	0.00	0.30	0.03

* p <.05 ** p <.01

Table 4 学校適応感と職業的アイデンティティの相関 (n=20)

	職業的アイデンティティ				
	職業的使命感	職業的充実感	職業的不適応感	職業的継続性	職業的スキル
学校適応感					
学校適応感	0.42	0.02	-0.62 **	-0.01	0.51 *
目標意識感	0.05	0.55 *	-0.21	-0.13	-0.06
学校承認感	0.55 *	-0.01	-0.30	-0.03	0.41
学校充実感	0.16	-0.11	-0.41	0.28	0.03

* p <.05 ** p <.01

「看護師の社会的価値を認識させる」「学業的動機づけを促進する」ことを目的とした1日のスクーリングとeラーニングからなる入学前教育を、入学前年度11月以前に入学が決まった5名の生徒に実施した。入学前教育がこれら5名（参加群）の大学での学業的動機づけ、職業的アイデンティティ、学校適応感に及ぼす影響を検討するために、入学前教育に不参加の対照学生15名（不参加群）と比較した。入学前教育によって参加群の学生の職業使命感と学校適応感の尺度得点は高値であることが認められた。また、学校充実感の尺度得点も高い傾向がみられた。しかし、大学における学業的動機づけは、いずれの下位尺度にも参加・不参加群間で差がみられなかった。

参加群の学生は、スクーリング時に十分時間をとって臨床経験豊富な看護師から様々な情報を得ることができた。それまでの進路選択の中で漠然とした看護職の情報は得ているが、看護課程に進むことが決まった後に得られた情報がより現実的に感じられた結果、職業使命感が高まったと考えられる。また、職業的アイデンティティの発達には、ロールモデルの存在が重要である。ロールモデルとなる教員や現場で活躍する看護師の存在は重要であり、良いロールモデルの存在は、看護学生の職業的アイデンティティの発達を促進する¹⁸⁾。スクーリング中に接した看護師は教員として実習指導を担当しているので、学生が直面するであろう問題を踏まえて、良いロールモデルを示すことができたと考える。このロールモデルを通して、入学前に看護の現実を知る

ことができるこによって、入学後の臨地実習の厳しさがもたらす職業的アイデンティティの低下を抑制する効果があるかもしれない。また、同じ志を持つ入学予定者同士の交流を含めて、スクーリングによる情報交換が、職業使命感を高めることに影響したと考えられる。看護職を目指す動機は様々で、互いの状況を意見交換することで、職業的使命感はより強くなると考えられる。さらに、1日ではあるが大学の学業の場においてスクーリングで過ごしたことや5人と少ない人数ではあるが志を共にする友人が入学時に存在することは、入学直後の学校適応感や学校充実感に良い影響を与えたと考えられる。

一方、大学における学業的動機づけに入学前教育の影響は認められなかった。看護系短期大学の早期入学決定者には、高等学校で文科系進学希望として生物を選択しない学生も多い。このような学生は、入学直後に開講される解剖学や生理学など専門基礎科目の理解に困難を示し、学業意欲を低下させことがある。知識不足を積極的に補って理解を進めながら学業を継続するような動機づけを促進する¹⁹⁾ための準備として、入学前教育において興味をもって楽しく学べる演習とeラーニングによる自己学習を提供了。スクーリングにおいてバイタルサインを視覚的に見てわかりやすく学べる機器を用いて行った測定演習で見られた各生徒の状況は積極的かつ興味深い取組態度であった。しかし、ここで喚起された動機づけが積極的な自己学習につながらなかったと考えられる。今回の入学前教育は1日に定めて計画・実

施したが、対象生徒に応じた内容を検討するとともに実施時期や期間などについて再検討する必要がある。また、eラーニング教材に関する感想を聞き取り、教材の量、内容、実施方法などについても検討が必要である。

これまで看護系A短期大学と併設高校の高大接続事業において、2学年から3学年にかけて進路選択を行う中で学業意欲と職業的アイデンティティ形成が相まって高まることが報告されている²⁰⁾。本結果において認められた内発的動機づけと職業的使命感・職業的スキルに高い相関関係は、内発的動機づけと職業的アイデンティティに同様の関係があることを示唆すると考えられる。また、学校適応感が職業的不適応感に負の相関関係を、また職業的スキルに正の相関関係を示した。さらに目標意識感と学校承認感はそれぞれ職業的充実感と職業的使命感に正の相関関係を示した。これらのことから、学校に早期に適応させて目標を堅実なものにすることが、看護師としての自覚を強く意識させて職業的アイデンティティを高めることにつながると考えられる。

今回行った高大接続教育は、入学直後の学業的動機づけを高めるに至らなかったが、内発的動機づけが職業的アデンティティの発達やキャリアの継続に関連するYilmazら¹⁰⁾の結果を支持すると考えられる。入学前教育において看護教育の内容そのものに興味を持って取り組む内発的動機づけを促す取り組みを検討することは、看護師としての職業的アイデンティティ形成の促進に重要な役割を果たすと考えられる。

謝辞

本研究は2016-2018年度科学研究費補助金基盤研究(C) (JSPS科研費 JP16K11978) および2016-2017年度大阪信愛女学院教育研究助成の一環として実施したものである。本研究の調査に際し、ご協力を頂いた対象者に深謝いたします。

引用文献

- 1) 白鳥さつき、佐藤公美子、比江島欣慎：看護学生・医学生の職業適応と自我状態に関する研究、医学教育, 35, 235-244. (2004)
- 2) Jones, A.: Attachment, belonging and identity are important to effective health curricula. Nurse Education Today, 30, 277-278. (2010)
- 3) Milton-Wildey, K., Kenny, P., Parmenter, G., Hall, J.: Educational preparation for clinical nursing: The satisfaction of students and new graduates from two Australian universities. Nurse Education Today, 34, 648-654. (2014)
- 4) Worthington, M., Salamonson, Y., Weaver, R., Cleary, M.: Predictive validity of the MaClark professional identity scale for undergraduate nursing students. Nurse Education Today, 33, 187-191. (2013)
- 5) 長谷川美貴子：看護学生における職業社会化と職業意識の関係性、淑徳短期大学研究紀要, 51, 167-184. (2012)
- 6) Sabanciogullari, S., Dogan, S.: Effects of the professional identity development programme on the professional identity, job satisfaction and burnout levels of nurses: A pilot study. International Journal of Nursing Practice, 21, 847-857. (2015)
- 7) Johnson, M., Cowin, L. S., Wilson, I., Young, H.: Professional identity and nursing: Contemporary theoretical developments and future research challenges. International Nursing Review, 59, 562-569. (2012)
- 8) Bengtsson, M., Ohlsson, B.: The nursing and medical students motivation to attain knowledge. Nurse Education Today, 30, 150-156. (2010)
- 9) Nasrin, H., Soroor, P., Soodabeh, J.: Nursing challenges in motivating nursing students through clinical education: A grounded theory study hindawi publishing corporation. Nursing Research and Practice, 1-7. (2012)
- 10) Yilmaz, F. T., Sabancioğullari, S., Kumsar, A. K.: Motivation in the first year of nursing education: It's relationship with professional self-concept, self-esteem. Archives of Nursing Practice and Care, 2, 50-56. (2016)
- 11) 安藤史高：大学コミットメントと自律性欲求・学習動機づけとの関連、一宮女子短期大学紀要, 44, 91-99. (2005)
- 12) 佐々木真紀子、針生亨：看護師の職業的アイデンティティ尺度(PISN)の開発、日本看護学会誌, 26, 34-41. (2006)
- 13) 大久保智生：青年の学校への適応感とその規定要因—青年用適応感尺度の作成と学校別の検討—、教育心理学研究, 53, 307-319. (2005)
- 14) 倉橋隆：人体のしくみの本、日刊工業新聞. (2015)
- 15) 田中越朗：好きになる生理学ミニノート、講談社サイエンティフィック. (2008)
- 16) Edwards, D., Burnard, P., Bennett, K., Hebden, U.: A longitudinal study of stress and self-esteem in student nurses. Nurse Education Today, 30, 78-84. (2010)

- 17) Poorgholami, F., Ramezanli, S., Jahromi, M. K., Jahromi, Z. B. : Nursing students' clinical performance and professional self-concept. Bangladesh Journal of Medical Science, 15, 57-61. (2016)
- 18) Baldwin, A., Mills, J., Birks, M., Budden, L. : Role modeling in undergraduate nursing education: An integrative literature review. Nurse Education Today, 34, e18-e26. (2014)
- 19) Levett-Jones, T., Lathlean, J., Higgins, I., McMillan, M. : Development and psychometric testing of the belongingness scale – clinical placement experience – an international comparative study. Collegian, 16, 153-162. (2009)
- 20) 豊島めぐみ, 石井あゆみ, 津田右子 : 短期大学看護学科における高大連携事業に関する高校生の学習意欲と職業的アイデンティティの発達, 大阪信愛女学院短期大学, 51, A2:1-5. (2017)

受理2019年3月30日

公開2019年4月30日

連絡先

上田博之

〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見6-2-28

大阪信愛学院短期大学

ueda@osaka-shinai.ac.jp